

③ 実施報告書

① 研究開発の課題

1 学校の概要

とっとりけんりつよなごひがしこうとうがっこう

(1) 学校名 鳥取県立米子東高等学校 校長名 田辺 洋範

(2) 所在地 鳥取県米子市勝田町1番地

電話番号 0859-22-2178 F A X 番号 0859-22-2170

(3) 課程・学科・学年別生徒数、学級数及び教員数

①課程・学科・学年別生徒数、学級数 令和3年5月現在

課程	学科・コース	第一年次		第二年次		第三年次		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科 普通コース	243	6	283	7	273	7	799	20
	内理系			141	3	134	3	275	6
	普通科 生命科学コース	40	1	40	1	40	1	120	3
定時制	普通科	14	1	25	2	16	2	55	5
計		347	8	336	10	331	10	974	28

②教職員数

校長	副校長	教頭	事務長	主幹教諭	教諭	常勤講師	養護教諭	養護助教諭	事務職員	司書	学校技能職員	実習職員	非常勤講師	非常勤職員	英語指導助手	学校医	学校歯科医	学校薬剤師	合計
1	1	2	1	2	67	8	3	1	3	1	1	1	12	7	2	3	3	1	120

2 研究開発課題

科学的リテラシーを備えた21世紀を担うリーダーを育成するプログラムの開発

3 研究開発の目的・目標

(1) 目的

- ・科学的探究心の育成
- ・情報発信力の育成
- ・実践力の育成

(2) 目標

- ・科学的探究心の育成
科学的探究心を育成するために、科学に対する関心意欲を高め、課題解決のための技能を習得するとともに、科学的思考力・判断力及び情報の表現力を育成する。
- ・情報発信力の育成
内的な知識・情報に関して論理的に表現しかつ、多様な手法、言語により発信する力を育成する。また、その土台となる言語スキルの向上を図る。
- ・実践力の育成
地域社会への参画、社会貢献への能動的態度を育成する。

4 研究開発の概略

A. 必修研究開発単位

学校設定教科「課題探究」において学年進行で系統的に課題探究を行い、その技能や論理展開を学ぶとともに、科学的思考力・判断力を体系的に習得させ、科学的探究心を育成する。このとき、教科横断的な取り扱いを行い、学校全体での組織的な取組を目指す。「課題探究基礎」での体験的学習では、地元大学での研修を通し、主として理系分野への興味関心を喚起する。そのほか、情報発信力を育成するため「能動的学習」、情報の発信力の基礎となる言語スキルを育成するために「言語技術教育」を行う。さらに、「人財育成事業」におけるロールモデルとなる研究者との出会い、他校生徒との交流を通して、生徒自身の気づきを促す。

B. 希望（選択）研究開発単位

希望者を対象に「自然科学部養成」、「Science Challenge」、「土曜活用事業」、「海外研修」を行う。これらの研究開発単位を通して、科学的探究心・情報発信力及び実践力を育成し、SSHの中心的生徒の育成を図る。

5 研究開発の実施規模

全日制課程第一・二・三年次 全校生徒を対象とする。

6 研究開発の内容・方法・検証評価等

(1) 現状の分析と課題

① 本校の概略

山陰の商都と呼ばれている米子市に位置する本校は、明治32年（1899年）の創立以来、「質実剛健」の校訓と、「文武両道」の校風のもと各分野に有為な人材を輩出してきた。人口約20万人の米子市圏域の中学校から成績最上位層の生徒が集まる普通科進学校であり、次世代を担うリーダーとしての人材の育成を地域から期待されている。

1学年の定員は、普通コース：6クラス240名、生命科学コース：1クラス40名の合計280名であり、大多数の生徒が国公立大学への進学を目指している。

② 本校の課題

本校は地方の伝統ある進学校として県内外に有為な人材を輩出し、地域から高い評価を得てきたが、これまでの本校の歴史と伝統を礎に、新たな価値を創造していかなければ、教育改革の大きな流れから取り残されてしまいかねないという危機感を持っている。長年にわたる進学についての実績やノウハウを活かした進路実現に加えて、基礎的な知識・技能の習得や答えのある問題解決には一定の高い能力を有している本校の生徒に対し、大学等での学びに対応できる力や、さらにその先を見据えて幅広い視野で物事を科学的・論理的に考え行動できる力を育てるために、探究的学習や体験的学習を取り入れたアクティブな進学校へ変わっていかなければならない。

本校の教育目標である、社会で発生する様々な課題を解決できる力を持った「21世紀のリーダーの育成」を目指して、未知の状況にも対応できる科学的リテラシーを習得させ、課題を明確にして自らが考えたことを発信する表現力等を育て、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力と人間性」を養い、世のため人のため国際社会や地域社会に貢献しようとする志を高める教育を実践する必要がある。

③ 今後の展望

本校は平成13年度に生命科学コースを創設し、鳥取大学医学部と連携しながら地域医療に貢献する人材の育成と理数教育の充実・発展に取り組んできた。「科学を創造する人財育成事業」においては、県内の生徒はもとより県外の生徒とも連携して科学に対する興味関心を高め、より高い知的創造力の育成を図ってきた。これらの取組をベースとして、理系文系全ての生徒が探究的な学びを行い、さらにそれぞれの知の融合を図るなど、学校全体としてSSH事業に取り組みたい。また、県内SSH校や島根県SSH校とも連携を図りながら、鳥取県はもとより山陰地方の理数教育の拠点として、科学技術人材の育成とグローバル人材の育成に寄与したい。

(2) 研究開発の仮説

仮説1

「科学的探究心の育成」は、学校設定教科「課題探究」において、学年進行で系統的・継続的に学習することで達成できる。本校生徒の「科学的探究心」は科学に対する関心・意欲、科学的思考力・判断力・表現力^{※1}、課題探究活動の技能をそれぞれ高める機会を与えることで伸長する。（※1 表現力＝表、グラフ、論文など情報伝達のための表現手法）

また、「科学を創造する人財育成事業」「土曜活用事業」などによる、優れた研究者との出会いや学校外での先端科学技術の体験は、生徒の視野を広げ、科学に対する関心・意欲を高め、自立的活動のきっかけとなる。

仮説2

「情報発信力^{※2}の育成」は、「言語技術教育」を通して、基本的な言語スキルを再構築するとともに、「能動的学習」において日常的に情報発信の機会を設けることで体験的に育成できる。また、「海外研修」において母国語以外での情報発信の機会を与えることで多様な言語スキルが身につく。（※2 発信力＝内的情報を出力する能力）

仮説3

「実践力の育成」は、自然科学部及び希望者を対象に「自然科学部養成」，「Science Challenge」を行い、地域社会への参画，社会貢献の体験を実際に行うことで育成できる。また，将来的に参加生徒が他の生徒のロールモデルとなり他の生徒へ効果の波及が期待できる。

(3) 各研究開発単位について

以下について，研究開発を行う。

- A 学校設定教科「課題探究」 B 人財育成事業 C 自然科学部養成 D Science Challenge
E 土曜活用事業 F 海外研修事業 G 言語技術教育 H 能動的学習

(4) 科学技術人材育成に関する取組内容・実施方法

- ・全生徒に課題探究を課すことによりその基礎的素養を育成し，「自然科学部養成」，「Science Challenge」参加者へ資源

を集中し育成する。

(5) 課題研究に係る取組

「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」を設定し、発達段階別に系統的指導を行う。

① 課題探究基礎

実施対象学年：第一年次

実施対象生徒：全員

単位数：2単位

学校の指導体制：副担任、情報科の他理科、数学、保健体育、家庭科、地歴公民科が教育企画部と連携し指導する。

② 課題探究応用

実施対象学年：第二年次

実施対象生徒：全員

単位数：2単位

学校の指導体制：各教科と教育企画部が連携して指導する。

③ 課題探究発展

実施対象学年：第三年次

実施対象生徒：全員

単位数：1単位

学校の指導体制：各教科と教育企画部が連携して指導する。

科目名・実施対象年次・実施対象生徒・単位数などの表

	第一年次		第二年次		第三年次		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
普通科 生命科学コース	課題探究 基礎	2	課題探究 応用	2	課題探究 発展	1	全員
普通科 普通コース理系	課題探究 基礎 (普通科 全員)	2	課題探究 応用	2	課題探究 発展	1	
普通科 普通コース文系			課題探究 応用	2	課題探究 発展	1	

(6) 授業改善に係る取組

従来型の教授法からの転換を図り、能動的学習の機会を増やすことにより生徒が自ら課題を発見し解決する力の伸長を図るため、平成26年度から職員対象の「コーチング研修」、「アクティブ・ラーニング研修」を実施しており、今後も同様の研修を年3回行い、職員の意識改革を促し、生徒を主体とした授業を通して生徒の学習への捉えを変化させていく。

7 研究開発計画・評価計画

A. 年次進行計画

年次進行で導入する研究開発単位は、下表のとおりである。記載のない研究開発単位は、SSH実施一年次より全学年を対象とする。

	第一年次対象	第二年次対象	第三年次対象
一年次 (H29)	課題探究基礎		
二年次 (H30)	課題探究基礎	課題探究応用 海外研修	
三年次 (R1)	課題探究基礎	課題探究応用 海外研修	課題探究発展
四年次 (R2)	課題探究基礎	課題探究応用 海外研修	課題探究発展
五年次 (R3)	課題探究基礎	課題探究応用 海外研修	課題探究発展

B. 各年度の重点目標及び評価計画

○一年次（平成29年度）

一年次では、従来型の学習プログラムからの教員・生徒・地域の意識改革が最重点目標となる。実施者である教員に対しては、内部機構の変更及び研修会の継続実施を持って意識変容を促す。また、保護者・地域に対しては十分な広報をし、情報発信を継続的に行う必要がある。生徒に対しては、各研究開発単位を通して、意識改革を促すが、基本となるのは各教科における日常の授業であり、授業改善を軸とした改革が重要である。これらの評価は、教員に対する授業評価、保護者アンケート、生徒アンケートを通して行う。

研究開発単位に関しては、学校設定科目「課題探究基礎」を実施し、プログラム開発を重点目標とする。同時に、第一年次普通コース対象の「課題探究基礎」での体験的学習に関しても、事前事後指導プログラムの開発を行う。また、次年度実施予定の学校設定科目「課題探究応用」、「海外研修」での体験的活動のプログラム開発を行う。

・一年次生対象事業

研究開発課題を達成するための、動機付け及び基礎力の養成を重点とした研究開発を行う。中でも、各教科における授業改善により能動的学習を導入し、生徒の学習に対するスタンスの変容を促す。また、個々に独立していた各種事業を結びつけ、校内全体の体系的な取組として展開する。

「課題探究基礎」においては、探究活動の基礎的な思考及び手法を習得することを目指しているが、同時に知的好奇心の喚起も目指しており、次年度の「課題探究応用」において、各自が自ら探究課題を設定できるための知識の習得及び動機付けが重要となる。このため、各研究開発単位の実施にとどまらず、情報収集のためのハード、ソフト整備及び日常における知への誘いを行うことが必要である。

さらに第一年次のアンケート結果を基に各研究開発単位の改善を図る。特に、「課題探究基礎」での体験的学習に関しては、その実施形態及び効果を分析し、内容を改善する。

・二・三年次生対象事業

S S H対象年次ではないため、「人財育成事業」以外の必修となる研究開発単位はないが、各事業とも生徒が主体となり能動的に参加できるようプログラム開発を行い、意識改革を促す。また、希望者対象事業に関する募集方法などの検討を通じて、次年度以降の募集方法に関して検討を行う。

○二年次（平成30年度）

二年次では、前述の意識改革を定着させるため継続的に働きかけるとともに、意識改革に伴う授業改善及び各研究開発単位の実施により、各仮説が立証されつつあるかの検証が重点目標となる。各仮説の評価に対する生徒・教員・保護者の意識の相関を分析し、正の相関が見られる場合、引き続き意識改革を行い、相関が見られない場合研究開発単位の改善を行う。尚、仮説1、2の評価は主として「課題探究基礎」、「課題探究応用」の成果物を検証するとともに、開発評価シートの評価項目の追跡、S S H実施前のアンケートとの比較により評価を行う。仮説3の評価は該当生徒の各種事業への参加状況及び外部評価で評価を行う。

・一年次生対象事業

平成29年度の改善をもとに各事業を実施する。平成30年度中に各仮説の評価及び生徒・教員・保護者の意識に明らかな正の相関が見られた場合、さらに効率的な意識付けができるよう研究開発単位の追加などを検討する。

・二年次生対象事業

研究開発課題を達成するための、実践力の養成を重点とした研究開発を行う。

「課題探究応用」は、最も中心となる研究開発単位であり外部人材、ICTを利用し、科目横断的にプログラム開発を行う。さらには、指導手法、指導内容の共有化を重点目標とし、担当者個人の能力ではなく、システムとしての継続可能な指導体制の構築を目指す。

「海外研修」、「課題探究応用」での体験的活動の実施においては、事前、事後指導を含めた一連のプログラム開発となるよう、また、不参加者へも成果を普及できるよう留意する。

○三年次（令和元年度）

三年次では、研究開発課題の達成度を第三年次の生徒を中心に検証し、各開発プログラムへフィードバックすることが重点目標となる。研究開発課題の達成度は、生徒アンケート、ジェネリックスキル測定テスト及び進学志望動向の詳細な分析により評価する。

・一・二年次生対象事業

指導情報の共有化を進め、効率的な研究開発単位になるよう整理改善を行う。研究開発単位のそれぞれの内容と生徒の発達段階を比較検討し、より効果的な内容となるよう検証する。

・三年次生対象事業

「課題探究発展」の実施に当たっては、特に英語科、情報科との科目間連携を密とし発表形態の改善を目指して指導する。また、必要に応じて追加実験などを指導し、高度な探究心を育成する。

○四年次（令和2年度）

4年次では、3年間の入学者・保護者の意識変容の分析により、各研究開発単位の学年配置及び内容を必要に応じて再構成し、改善を図る。

・一・二・三年次生対象事業

文部科学省による中間評価や3年間の入学者・保護者の意識変容の分析により、各研究開発単位の学年は一及び内容を必要に応じて再構成し、改善を図った。また、パフォーマンス評価の導入による授業改善を行った。

○五年次（令和3年度）

五年次では、3年間の卒業生・保護者の意識変容の分析により、各研究開発単位の学年配置及び内容を必要に応じて再構成し改善を図るとともに、研究指定終了後も持続可能な教育システムになるよう各研究開発単位の完成を目指す。

C. 研究交流及び研究成果の普及に係る計画

		研究交流	研究成果の普及
一年次 (H29)	第1 四半期		
	第2 四半期	S S H生徒研究発表会参加	科学教室実施 サイエンスカフェ実施
	第3 四半期		科学を創造する人財育成事業実施
	第4 四半期	鳥取県理数課題研究等発表会参加	校内発表会実施（一年次生発表）
二年次 (H30)	第1 四半期		
	第2 四半期	S S H生徒研究発表会参加 各種学会参加	科学教室実施 サイエンスカフェ実施 校内中間発表（二年次生発表）
	第3 四半期		科学を創造する人財育成事業実施
	第4 四半期	鳥取県理数課題研究等発表会参加	校内発表会実施（一，二年次生発表）
三年次 (R1)	第1 四半期		
	第2 四半期	S S H生徒研究発表会参加 各種学会参加	科学教室実施 サイエンスカフェ実施 校内中間発表（二年次生発表） 校内最終発表（三年次生発表）
	第3 四半期	各種学会参加	科学を創造する人財育成事業実施
	第4 四半期	鳥取県理数課題研究等発表会参加	校内発表会実施（一，二年次生発表）
四年次 (R2)	第1 四半期		
	第2 四半期	S S H生徒研究発表会参加 各種学会参加	科学教室実施 サイエンスカフェ実施 校内中間発表（二年次生発表） 学校祭発表（三年次生発表）
	第3 四半期	各種学会参加	科学を創造する人財育成事業実施
	第4 四半期	鳥取県理数課題研究等発表会参加	校内発表会実施（一，二年次生発表 三年次生希望者）
五年次 (R3)	第1 四半期	G S C広島参加	
	第2 四半期	S S H生徒研究発表会参加 各種学会参加	学教室実施 サイエンスカフェ実施 校内中間発表（二年次生発表） 学校祭発表（三年次生発表）
	第3 四半期	各種学会参加	科学を創造する人財育成事業実施
	第4 四半期	鳥取県理数課題研究等発表会参加	校内発表会実施（一，二年次生発表 三年次生希望者）

② 研究開発の経緯

A. 科学的探究心の育成

(1) 教育課程編成上の特例

実施日	研究開発内容	参加者
実施中	学校設定科目『課題探究基礎』, および『探究数学Ⅰ』	1 年次生
実施中	学校設定科目『課題探究応用』	2 年次生
実施中	学校設定科目『課題探究発展』	3 年次生
実施中	学校設定科目『探究数学Ⅱ文』	2 年次生 普通コース文系
実施中	学校設定科目『探究数学Ⅱ理』, および『探究化学』	2 年次生 普通コース(理系) 生命科学コース
実施中	『理数物理』, および『理数化学』, および『理数生物』	1・2 年次生および 3 年次生 生命科学コース

(2) 学校設定科目『課題探究基礎』, 『課題探究応用』, 『課題探究発展』

実施日	研究開発内容	参加者
8/3 (火) ～ 4 (水)	国内研修 (鳥取大学)	2 年次生 生命科学コース
9 月第 2～3 週	国内研修 (鳥取大学) 医学部保健学科看護学専攻・検査技術科学専攻	コロナウィルスの影響により中止
9 月第 2～3 週	国内研修 (鳥取大学) 工学部、医学部医学科・生命科学科	コロナウィルスの影響により中止
9 月第 2～3 週	国内研修 (鳥取大学) 農学部	コロナウィルスの影響により中止
9/16 (木)	国内研修 (岡山大学)	1 年次生 生命科学コース
12/14(火)・15 (水)	ハイレベル講座	1 年次生
12/14(火)・15 (水)	プレゼンテーション講習	2 年次生
① 12/2 (木) ② 12/10 (金)	令和 3 年度外部人財活用事業 (県立高校・大学教員の教員交流事業・鳥取大学) ① 講義・実験「生き物の形つくりの不思議と再生医療」 ② 講義「医療に関する最近の遺伝の話」	① 1 年次生 生命科学コース ② 2 年次生 生命科学コース
2/17 (木)	SSH 研究成果発表会	1・2・3 年次生

(3) 『人財育成事業』

実施日	研究開発内容	参加者
7/26 (月)	「先輩に学ぶ」オンライン講演会 自分でもできる社会・国際貢献	22 名
10/16 (土)	科学を創造する人財育成事業 講演会	1・2・3 年次生
	科学を創造する人財育成事業 数学コンテスト・科学実験	211 名
11/12 (金)	「先輩に学ぶ」オンライン講演会 都市工学と都市計画	28 名
11/16 (火)	「未来の教師育成プロジェクト」事業「夢の教室」	46 名
12/13 (月)	SDGs 講演会	1・2 年次生

(4) 『土曜活用事業』

実施日	研究開発内容	参加者
7/22 (木・祝)	一流から学ぶ心のトレーニング	89 名
9/25 (土)	山陰海岸から日本海の成り立ちが見えてくる	17 名
10/30 (土)	地元のお城を知っていますか？ 米子城を学ぼう！	8 名
11/13 (土)	大山自然観察 大山の不思議とすてきを知ろう！	26 名
12/18 (土)	島根県の科学も知ろう！ 三瓶山周辺の自然と科学	26 名
2/11 (土)	デジタルファブリケーションと科学の進歩に触れる！ 3D プリンター活用研究	15 名

B. 情報発信力の育成

(1) 『言語技術教育』

実施日	研究開発内容	参加者
4 月 第 3 週目	オリエンテーション・問答の技術「問答ゲーム」	1 年次生
4 月 第 3 週目	情報伝達の技術「説明Ⅰ」	1 年次生
4 月 第 4 週目	物語の技術「再話」	1 年次生
5 月 第 3 週目	要約の技術「パラグラフ・ライティング」	1 年次生

5月 第3週目	問答の技術「意見と事実」、情報伝達の技術「説明Ⅱ」	1年次生
6月 第3週目	情報伝達の技術「説明Ⅱ」	1年次生
7月 第1週目	認知の技術「視点」	1年次生
7月 第4週目	情報分析の技術「絵の分析」	1年次生

(2)『能動的学習』

実施日	研究開発内容	参加者
12月	県外エキスパート教員招聘事業	コロナウイルスの影響により中止
9/17(木)	探究的な学習に必要なスキル向上研修	全教員
4/14(水)・6/9(水)	タブレットを活用した授業研究会	教員 15名

(3)『海外研修』

実施日	研究開発内容	参加者
5/10(月)	オーストラリア グリフィス大学 オンライン授業	19名
9/9(木)・10(金)	OIST(沖縄科学技術大学院大学) 体験オンライン	25名
12/14(火)	ワシントン大学院生とのオンライン交流 米子と米国の都市工学と都市計画	21名

C. 実践力の育成

(1)『自然科学部養成』

実施日	研究開発内容	参加者
5/8(土)	星取県で活躍しよう！ ～みんなで魅せる星取県を目指して～	8名
5/18(火)	とっとりバイオフィロンティア オンライン講座「腸内細菌類と健康Ⅰ」	21名
6/12(土)	とっとりバイオフィロンティア オンライン講座「オンラインでも伝わるプレゼンテーション講座」	1名
7/24(土)	小・中学生のための自由研究講座「研究したい人集まれ！」	21名
7/31(土)	第45回全国高等学校総合文化祭自然科学部門	1名
11/20(土)・21(日)	第41回近畿高等学校総合文化祭自然科学部門	1名
11/26(金)	JAXA オンライン講演会	16名
12/11(土)	楽しく学ぶ科学教室	16名
12/15(水)～17(金)	Advance 研修(東京・筑波)	16名

(2)『Science Challenge』

実施日	研究開発内容	参加者
5/15(土)・10/23(土)・24(日)	鳥取県版高校生科学イノベーション事業	1名
6月～令和4年2月	GSC 広島グローバルサイエンスキャンパス	32名
7/11(日)	第17回全国物理コンテスト物理チャレンジ2021	5名
7/18(日)	日本生物学オリンピック 2021	12名
7/22(木・祝)	化学グランプリ 2021	4名
7/29(木)	山陰探究サミット	5名
7/26(月)～30(金)	Design Your Future 2021	2名
8/4(水)	令和3年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会	3名
8/18(水)	身近な技術・アイデアと医療現場をつなぐ「やさしい医工連携」のススメ	2名
9/11(土)	ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」	22名
9/19(日)	日本鳥学会	1名
9/25(土)	広島大学から世界へ ～世界のトップ研究者に聞く～	4名
9/30(木)	若者よコロナに挑め ～研究者と高校生・大学生によるトークセッション～	6名
10/17(日)・11/20(土)	第21回日本情報オリンピック	1名
10/23(土)・11/13(土)	IOTを活用したツール制作ハッカソン	10名
10/24(日)	とっとりバイオフィロンティア開設10周年記念事業記念式典およびシンポジウム	2名

10/24 (日)	オンライン MOGIMOGI	2 名
11/11 (火)	日本の医学部を出てハーバードで活躍するコツ	5 名
11/13 (土)	令和 3 年度 「科学の甲子園」 鳥取県大会	8 名
11/21 (日)	グローバルサイエンスキャンパス 全国発表会	1 名
11/27 (土)・28 (日)	日本野球科学研究会第 8 回大会	7 名
11/27 (土)	ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「材料で未来を拓く」	3 名
12/11 (土)	第 16 回科学地理オリンピック日本選手権	2 名
12/19 (日)	第 14 回日本地学オリンピック	1 名
12/18 (土)～19 (日)	日本学生科学賞	3 名
1/10 (月・祝)	第 32 回日本数学オリンピック (JMO) 予選	23 名
1/16 (日)	My Project Award 2021	24 名
1/24 《月》～28 《金》	The 5 th KVIS Invitational Science Fair	1 名
1/29 (土)	兵庫県立豊岡高等学校 SSH 研究成果発表会	3 名
2/5 (土)	令和 3 年度 鳥取県高校生理数課題研究等発表会	7 名
2/8 (火)	鳥取県立鳥取西高等学校 SSH/SGH 等研究成果発表会	1 名
2/19 (土)	青翔開智中学校・高等学校 SSH 成果発表会	コロナウイルスの影響により外部参加中止
3/12 (土)	京都大学ポスターセッション	3 名
3/14 (日)～19 (金)	第 69 回日本生態学大会	3 名
3/18 (金)～21 (月・祝)	科学の甲子園全国大会	8 名
3/19 (土)	ジュニア農芸化学会 2022	5 名
3/19 (土)	電気学会 U18 学生研究発表会	10 名
3/26 (土)	第 3 回発明楽コンテスト	29 名